

# さん太のワークシート

倉敷工業高（倉敷市老松町）の生徒が伝統的な緋の技法を取り入れたデニム製品の開発に取り組みました。記事を読んで質問に答えましょう。

## 倉敷工高3年生5人

# 緋技法のデニムでできた

伝統的な緋の技法を取り入れたデニム製品の開発に倉敷工業高（倉敷市老松町）ファッション技術科の3年生5人が取り組んだ。同市で昔から盛んな繊維産業の魅力を伝えようと、生地作りから挑戦。当初の構想通りにはならなかったが、何とか製品に仕上げた5人は「ものづくりの難しさを知る貴重な経験になった」と話している。

（岡田みなみ）

緋は一部を白く染めるときに使う自動織機残した糸でかすれたよを活用して製造。藍色うな模様を作り出したと白色が交互になる市織物で、かつては備後松模様を作ろうとした地方などで盛んに生産が、手織りでは可能とされていた。現在は途中でのずれの調整がとんど使われていない自動織機ではできず、ため、若者が着られる思っような柄が出ないようデニムに取り入れる状態が続いたという。よつと、課題研究の「かないものなのか」と環で昨年5月に着手し一時は諦めかけたが、生地は、デニムを作る単位で微調整するな

## 生地から挑戦 伝統継承へ試行錯誤



アイディアを形にするのは  
難しいけれど楽しいんだね



どしながら根気よく継続。昨年12月、市松ではなくアーガイル（ひし形模様）風になったが、ようやく緋らしさを感じられる生地ができた。そこから約1カ月かけてポケット部分に緋生地を使用したパンツ、生地部分にデニムと緋を交互に使った日傘など、それぞれが思い思いに仕上げた。5人は4月から縫製に緋の技法を取り入れてデニム製品を作った倉敷工業高ファッション技術科の5人

関わる就職先へ進む。学生服メーカーに就職するリーダーの今吉祥嘉さん（18）は「就職しても今回感じた作る喜びを忘れず、頑張りたい。後輩たちが経験を引き継ぎ、いつか完成させてくれたらうれしい」と話していた。

Q1 ★★★★★

倉敷工業高の生徒はなぜデニム製品に緋技法を取り入れたのですか。リード（第1段落）と第2段落を基に答えましょう。

Q2 ★★★★★

製品に仕上げるまでの苦勞を第3、4段落に注目して説明しましょう。

Q3 ★★★★★

伝統技術を現代的な製品に生かすとしたら、どんな例が考えられますか。周りの人と話し合ってみましょう。

★の数は問題の難易度を表しています。

19日付、山陽新聞おくらプラス